

# 現場説明書

1

令和6年10月10日以降調達公告適用

工 程	<p>① (他工事等との調整) —                  _____ については、_____ と関連するので相互の連絡調整を密にすること。</p> <p>② (部分完成、着工保留) —                  _____ については、_____ まで _____ [すること、しないこと]。</p> <p>③ (施工時間)                  本工事の施工時間帯は、昼間施工 (8:00~17:00) を見込んでいる。                  _____ の施工時間は、_____ : _____ ~ _____ : _____ とする。</p> <p>④ (余裕期間設定工事) —                  本工事は、鳥取県余裕期間設定工事に係る実施要領 (平成28年6月9日付第201600036328号県土整備部長通知) の対象工事であり、工事開始日、前払金の請求、技術者の配置及びその他の取扱いについては、同要領の規定による。                  工期については、調達公告のとおりとする。</p> <p>⑤ (鋼材の調達の遅れによる工期の延長) —                  この工事の工期には、鋼材調達期間として、_____ ヶ月を見込んでいるが、受注者の責に帰することができない事由により鋼材の調達が遅れ、工期内に工事を完成することができない場合は、その理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。</p> <p>⑥ (週休2日工事)                  本工事は、鳥取県県土整備部週休2日工事実施要領 (平成30年3月12日付第201700297117号県土整備部長通知) の対象工事である。 <a href="https://www.pref.tottori.lg.jp/277262.htm">https://www.pref.tottori.lg.jp/277262.htm</a> に掲載された本工事調達公告日時点で最新の同要領の規定に従い週休2日工事を実施すること。</p>
用地 関係	<p>① (用地、物件等未処理) —                  本工事区間の _____ には _____ があるので、監督員と打合せのうえ施工を行うこと。                  なお、_____ 頃 _____ の予定である。</p>
支 障 物 件	<p>① (埋設物等の事前調査)                  工事に係る地下埋設物等の事前調査については、[未調査・(水道・下水道・電気・通信・ガス・その他 _____) について調査済み] である。                  事前調査済みのうち本工事区域内で埋設が確認されている地下埋設物等は、(水道・下水道・電気・通信・ガス・その他 _____) であるため、各管理者の立会を求めて埋設位置等の確認を行うこと。                  その他埋設が想定される未調査の埋設物については事前に確認を行うとともに、管理者不明の埋設物等が確認された場合は、監督員に報告すること。</p> <p>② (支障物件) —                  _____ の施工に当って、_____ が支障となっているが、_____ までに移設が完了する見込である。                  予定どおり処理できなかった場合は別途協議する。</p> <p>③ (立木の置き場所) —                  工事用地内の立木は伐採し、_____ に置くこと。</p>
公 害 対 策	<p>① (低騒音型・低振動型建設機械) —                  本工事のうち施工箇所：_____ については、特に生活環境を保全する必要があるため、下記工種の施工に当たっては、低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定 (国土交通省告示、平成13年4月9日改正) に基づき指定された建設機械を使用するものとする。                  該当工種：_____、施工機械：_____</p>

① (交通安全施設等)

一般交通等に支障を及ぼさないよう十分注意して施工すること。なお、交通整理の配置人員及び必要日数として、以下のとおり見込んでいるが、警察等との協議により変更が生じた場合は別途協議すること。

交通誘導員A \_\_\_\_\_人 交替要員 \_\_\_\_\_人 1日あたり合計 \_\_\_\_\_人 配置日数 \_\_\_\_\_日  
 工事全体合計 \_\_\_\_\_人・日

交通誘導員B \_\_\_\_\_人 交替要員 \_\_\_\_\_人 1日あたり合計 \_\_\_\_\_人 配置日数110日  
 工事全体合計 110人・日

警備業法に規定する警備員を配置する場合には、交通誘導員A、交通誘導員Bの定義は以下のとおりとする。

交通誘導員Aとは、警備業法第2条第4項に規定する警備員であり、警備員等の検定等に関する規則第1条第4号に規定する交通誘導警備業務に従事する者で、交通誘導警備業務に係る1級検定合格警備員又は2級検定合格警備員をいう。

また、交通誘導員Bとは、警備業法第2条第3項に規定する警備業者の警備員で交通誘導員A以外の交通の誘導に従事する者をいう。

なお、自社の従業員で交通整理を行う場合は、警備業法第14条で規定する以外の者とし、安全教育、安全訓練等を十分行うこと。この場合は交通誘導員Bを配置していることとみなす。

① (濁水処理)

工事で発生する濁水に対しては、濁水処理を行うものとし、その工法については、設計図書によるものとするが、濁りがとれない等の効果に疑問がある場合や、より効果的な濁水対策が考えられる場合は別途協議すること。

また、舗装の切断作業時に発生する排水の処理についても、舗装の切断作業時に発生する排水の処理について(平成24年3月27日付第201100201443号水・大気環境課長通知) (<https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1141896/120327hosousetudan.pdf>) に基づいて適正に処理すること。

【建設リサイクル法】

① (手続き)

当工事は建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)に基づく分別解体等の実施義務を負う工事であるので、入札後すみやかに法第12条1項に規定する「受注予定者から発注者への書面による説明」を行うこと。

同法に基づく知事への通知を行った後、監督員から届出(通知)済証が交付されるので、それまで該当する内容については現場着手しないこと。

【建設発生土(処理)】

建設発生土は、再生資源の利用の促進に係る特記仕様書 (<https://www.pref.tottori.lg.jp/312034.htm>) により適切に対応すること。

① (他工事等流用)

建設発生土は \_\_\_\_\_市・町・村 \_\_\_\_\_地内の \_\_\_\_\_工事現場に運搬(片道運搬距離 \_\_\_\_\_km) するものとする。

② (建設技術センター)

建設発生土は \_\_\_\_\_市・町・村 \_\_\_\_\_地内のセンター事業所に運搬(片道運搬距離 \_\_\_\_\_km) するものとする。なお、処理費として1m<sup>3</sup>当り \_\_\_\_\_円をセンターに支払うこと。センター事業所へ搬出する主砂の主質は、各事業所が指定している主質性状同等以上とすること。(主質性状(記載例) 砂質土、コーン指数300kN/m<sup>2</sup>以上)

③ (民間残土受入地)

建設発生土は \_\_\_\_\_市・町・村 \_\_\_\_\_地内の \_\_\_\_\_に運搬(片道運搬距離 \_\_\_\_\_km) するものとする。なお、処理費として1m<sup>3</sup>当り \_\_\_\_\_円を \_\_\_\_\_に支払うこと。民間残土受入地へ搬出する主砂の主質は、各受入地が指定している主質性状同等以上とすること。(主質性状(記載例) 砂質土、コーン指数300kN/m<sup>2</sup>以上)

④ (主質改良プラント)

建設発生土は \_\_\_\_\_市・町・村 \_\_\_\_\_地内の \_\_\_\_\_に運搬(片道運搬距離 \_\_\_\_\_km) するものとする。なお、処理費として1m<sup>3</sup>当り \_\_\_\_\_円を \_\_\_\_\_に支払うこと。主質改良プラントへ搬出する主砂の主質は、各プラントが指定している主質性状同等以上とすること。(主質性状(記載例) 砂質土、コーン指数300kN/m<sup>2</sup>以上)

【コンクリート塊・アスファルト塊・建設発生木材(処理)】

① (分別解体等)

コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材は、現場内において分別解体するものとする。その方法は、別表のとおりとする。なお、その費用を下記のとおり見込んでいる。

コンクリート塊 1m<sup>3</sup>当り \_\_\_\_\_円  
 アスファルト塊 1m<sup>3</sup>当り \_\_\_\_\_円  
 建設発生木材 1m<sup>3</sup>当り \_\_\_\_\_円

② (他工事等流用)

[Co雑割材・ \_\_\_\_\_] は、 \_\_\_\_\_市・町・村 \_\_\_\_\_地内 \_\_\_\_\_工事で使用するものとする。

安全対策

濁水処理

建設副産物の処理

③ (バイオマス発電燃料加工施設への搬出)

建設発生木材は\_\_\_\_\_市・町・村\_\_\_\_\_地内の\_\_\_\_\_のバイオマス発電燃料加工施設への搬出(片道運搬距離\_\_\_\_\_km)を想定し、1t当たり\_\_\_\_\_円を見込んでいる。搬出先を変更する場合には、理由を付して協議を行うこと。

なお、公共工事で伐採する支障木は、一般木質バイオマスとして区分される。一般木質バイオマスであることは、立木の所有者(鳥取県)自らにより由来を証明することを基本とするが、伐採・運搬を行う者が由来を証明する場合は、鳥取県森林組合連合会が登録・審査した認定団体でなければならない。当該工事は、[所有者(鳥取県)・伐採・運搬を行う者]により由来の証明を行うこととしているため、着手にあたっては事前に監督員に確認すること。

④ (木材市場等へ売却)

建設発生木材は\_\_\_\_\_市・町・村\_\_\_\_\_地内の\_\_\_\_\_への搬出(片道運搬距離\_\_\_\_\_km)を想定し\_\_\_\_\_円を見込んでいる。これは、他の木材市場等への売却を妨げるものではないが、売却先を変更する場合の理由を付して協議すること。

⑤ (再資源化施設へ搬出)

コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材等は、再生資源として、下記の再資源化施設等への搬出を見込んでいる。これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが搬出先を変更する場合は理由を付して協議を行うこと。再資源化施設業者等と書面による委託契約を行うとともに、運搬車両ごとに manifests を発行するものとする。

なお、再資源化施設へ搬出が完了したときは、書面により報告すること。

- (施設の名称) \_\_\_\_\_市・町・村\_\_\_\_\_地内の\_\_\_\_\_
- (受入れ費用) \_\_\_\_\_(運搬距離\_\_\_\_\_km)、費用 1t 当たり\_\_\_\_\_円
- アスファルト塊 \_\_\_\_\_市・町・村\_\_\_\_\_地内の\_\_\_\_\_
- \_\_\_\_\_ (運搬距離\_\_\_\_\_km)、費用 1t 当たり\_\_\_\_\_円
- 建設発生木材 \_\_\_\_\_市・町・村\_\_\_\_\_地内の\_\_\_\_\_
- \_\_\_\_\_ (運搬距離\_\_\_\_\_km)、費用 1t 当たり\_\_\_\_\_円
- その他(\_\_\_\_\_) \_\_\_\_\_市・町・村\_\_\_\_\_地内の\_\_\_\_\_
- \_\_\_\_\_ (運搬距離\_\_\_\_\_km)、費用 1t 当たり\_\_\_\_\_円

(受入れ時間帯) 8時～17時(平日)

(受入れ条件) ア 路盤材、土砂、金属片等が混入していないこと。

イ コンクリート塊、アスファルト塊の径は500mm以下であること。

ウ 建設発生木材に関しては、泥等の付着がなく、径\_\_\_\_\_cm以下、長さ\_\_\_\_\_m以下であること。

エ 2次公害発生の恐れのある物質(廃油等)を含まないこと。

⑥ (最終処理等)

\_\_\_\_\_については、\_\_\_\_\_市・町・村\_\_\_\_\_地内の産業廃棄物処理場への搬出(片道運搬距離\_\_\_\_\_km)を想定し、その費用として1t 当たり\_\_\_\_\_円を見込んでいる。

これは、他の施設へ搬出を妨げるものではないが、搬出先を変更する場合は協議を行うこと。

⑦ (産業廃棄物の処理に係る税)


産業廃棄物の処理に係る税に相当する額を、\_\_\_\_\_円見込んでいる。

⑧ (伐木工の数量)

伐木工は伐木工歩掛(平成27年8月12日付第201500076595号鳥取県県土整備部技術企画課長通知)に基づき参考数量で算出しているため、実績について見積もり等により監督員に協議を行うこと。

⑨ (建設発生木材の出来形数量)

建設発生木材の運搬量、搬出量は出来形数量に応じて設計変更を行う。そのため、次のとおり数量管理を行うこと。

王 種	項 目	規 格	摘 要
建設発生木材 運搬量	現場において運搬車の計測を行うこと。 平均的な1断面を計測。計測に当たっては、頂部に最低2箇所の折れ点を設けること。 断面積に荷台の延長を乗じて体積を算定する。	運搬車全数の測定を行うこと。また、10台に1台の割合で写真管理を行うこと。ただし、搬出台数が10台に満たない場合は、2台以上写真管理を行うこと。 なお、manifests で運搬量(体積(空m <sup>3</sup> ))が確認出来る場合は、計測、写真管理は不要とする。	折れ点を2点以上設ける  平均的な断面
建設発生木材 搬出量	manifests 又は伝票管理を行うこと。	運搬車全数の管理を行うこと。	伝票は処分業者が発行したものでなければならない。

⑩ (manifests)

産業廃棄物の運搬又は処分を他人に委託するときは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき manifests を作成すること。ただし、一般廃棄物や有価物は不要である。

建設副産物の処理

建設副産物の使用	<p>① (建設発生土の使用)  <del>_____ 工事から [本工事運搬・相手方運搬] の建設発生土を受入れ、使用箇所：_____ に使用する。</del>          なお、建設発生土は、再生資源の利用の促進に係る特記仕様書  <del>(<a href="https://www.prof.totteri.lg.jp/312034.htm">https://www.prof.totteri.lg.jp/312034.htm</a>) により適切に対応すること。</del></p> <p>② (再生資材の使用)  <del>ア Co雑割材は、_____ 工事から運搬し、使用箇所：_____ に使用する。</del>  <del>イ アスファルト・コンクリート切削殻等は、_____ 工事から運搬し、使用箇所：_____ に使用する。</del>          ウ 再生クラッシュラン [規格：Rc-40 ] は、使用箇所：<u>基礎碎石・碎石舗装</u>に使用する。          エ 再生コンタリート砂 [規格：RS=_____ ] は、使用箇所：_____ に使用する。          オ 再生加熱アスファルト混合物 [規格：_____ ] は、使用箇所：_____ に使用する。          カ その他再生資材 [資材名：_____ ] [規格：_____ ] は、使用箇所：_____ に使用する。          キ 本工事において、再生クラッシュランの使用は上記ウに記載のものを想定している。当該碎石について、受注者が再生資源化施設側と供給状況等について協議し、再資源化施設側から書面により供給の確保ができない旨の回答があった場合には、他の再生碎石を使用することとし、設計変更の対象とする。その上で他の再生碎石の確保も難しいと判断された場合には、新材を使用することとし、設計変更の対象とする。          ク 本工事において、粒度調整碎石の使用は新材を想定している。ただし、受注者が再生材の使用を希望する場合には、受注者において供給状況を確認し、再生材の使用について協議することとし、設計変更の対象とする。</p>
工事用道路	<p>① (農地の一時転用について)          本工事を施工するために必要な仮設道路等を農地に設置する目的で、受注者が農地を借地する場合は、事前に所轄農業委員会と協議を行い、農地法第5条第1項に基づく農地一時転用の許可を得ること。  <del>【令和5年4月1日時点で、前工事等の請負業者が一時転用している農地を継続して利用する場合は、以下も記載する。(該当がなければ記載を削除)】</del>  <del>受注者は、前工事等の請負業者が農地一時転用している農地を継続して利用する場合、速やかに変更報告書を作成の上、所轄農業委員会へ提出し、工事完了後はその旨を連絡すること。</del></p> <p>② (農地の賃貸借)  <del>ア _____ の用途に使用するため、_____ 市・町・村 _____ 番地を賃貸借すること。</del>  <del>イ 土地賃貸借契約書に「鳥取県との建設工事請負契約に基づき、土地の貸借権は鳥取県が有することとし、原状復旧の責は鳥取県が負い、受注者がその任に当たるものとする。」を明記した契約書(案)を提出し、発注者の確認を受けること。</del>  <del>ウ 賃貸人に賃貸借料を支払うこと。</del>  <del>エ 工事完了後、速やかに農地の原状に復旧し、地権者に引き渡す前に監督員の確認を受けること。</del>  <del>オ イにより契約した地番における、農地一時転用許可は不要である。</del></p>
その他	<p>① (自社施工)          本工事においては、<u>(※) _____ 工 ( _____ 工を除く) のうち少なくとも _____ 千円までの部分は、鳥取県県土整備部自社施工対象工事適正実施要領に定めるところにより自社施工しなければならない。</u>  <u>※該当する細別(レベル4)を記載する。</u></p> <p>② (工事名称)          工事標示板に記載する名称は、<u>_____ 契約工事名 _____ とする。</u>          なお、工事標示板には、原則として県産木材を使用すること。また、その他の保安施設等についても積極的に県産木材を使用すること。</p>

③ (景観評価)

ア 本工事は、鳥取県公共事業景観形成指針に基づく、景観評価対象事業〔である・ではない〕。  
 イ 景観評価対象事業の場合、施工にあたっては設計図書によるほか、必要に応じて監督員と協議すること。

④ (工事成績評定)

本工事は、工事成績評定要領（以下「評定要領」という。）に基づく工事成績評定の対象と〔する・しない〕。工事成績評定の対象外とするのは以下の〔ア・イ・ウ・エ・オ〕に該当するため。（公財）鳥取県建設技術センター発注工事であるため。  
 ア 請負対象設計金額（請負契約の対象となる部分の設計金額をいい、請負契約締結後に請負対象設計金額を変更した場合には、当初請負対象設計金額とする。以下同じ。）が、5,000万円未満の一般土木工事及び2,500万円未満の建築・設備工事  
 イ 鳥取県の管理する道路（道路法（昭和27年法律第180号）第2条第1項に規定する道路に限る。）・河川・湖沼・港湾を維持し、修繕し、又は管理（公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法（昭和26年法律第97号）第2条第2項に規定する災害復旧事業として行われるものを除く。）することを目的として発注された工事（年間維持、港湾浚渫、河川掘削、伐開、塵芥処理工事）  
 ウ 災害等の初期活動で緊急かつ迅速な対応が不可欠である緊急応急工事  
 エ 機器の納品、部品取替等の建設工事（融雪施設点検補修、道路照明灯点検補修、標識灯設置工事等）  
 オ 工事目的物を伴わない建設工事（旧橋撤去、残土撤去・運搬工事等）

⑤ (監督体制)

本工事は監督体制は〔一般・重点〕監督とする。  
 重点監督の工種は\_\_\_\_\_とし、その他の工種は一般監督とする。  
 なお、鳥取県建設工事低入札価格調査制度対象工事となった場合は、別途通知する。

⑥ (三者協議)

本工事は、\_\_\_\_\_(対象工事の区分を記載)\_\_\_\_\_  
 工事であり、工事着工までに、施工条件及び施工の留意点等を確認するため、発注者並びに当該工事の測量等業務受注者及び施工受注者の三者で協議するものとする。（重点監督工事等に適用）

⑦ (技能士常駐)

本工事には、下記のとおり鳥取県土木工事共通仕様書特記事項に基づく技能士常駐対象工種が含まれており、該当工種の作業期間は、技能士が工事現場に常駐しなければならない。  
 ア 技能士種別：\_\_\_\_\_技能士、該当工種：\_\_\_\_\_工、特記事項根拠：\_\_\_\_\_頁  
 イ 技能士種別：\_\_\_\_\_技能士、該当工種：\_\_\_\_\_工、特記事項根拠：\_\_\_\_\_頁  
 ウ 技能士種別：\_\_\_\_\_技能士、該当工種：\_\_\_\_\_工、特記事項根拠：\_\_\_\_\_頁

⑧ (電子納品)

情報共有システムを利用する工事は、原則として工事完成図書を電子納品すること。ただし、止むを得ない事情がある場合は、監督員と協議の上、紙書類によることができる。  
 情報共有システムを利用しない工事であっても、受注者が電子納品を希望する場合は、監督員と協議の上、電子納品対象工事とする。  
 電子納品に当たっては、<https://www.pref.tottori.lg.jp/171188.htm>に掲載された本工事調達公告日時点で最新の「鳥取県電子納品・情報共有運用ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）に従い適正に納品すること。  
 オンライン電子納品を実施する場合は、<https://www.pref.tottori.lg.jp/318010.htm>に掲載された本工事調達公告日時点で最新のオンライン電子納品試行要領（令和6年6月12日付第202400071599号技術企画課長通知）に従うこと。

⑨ (情報共有システム)

情報共有システム（以下「システム」という。）を利用することとする。ただし、システムの利用を希望しない場合は、監督員と協議の上、紙書類によることができる。  
 システム利用に当たっては、ガイドラインに従い適正に実施すること。

⑩ (寒中コンクリート)

本工事は、寒中コンクリートとして施工を行わなければならない期間があるので、適正に実施すること。なお、寒中コンクリートの養生費用については、「寒中コンクリートの養生費用について」（平成23年12月7日付第201100123529号県土整備部長通知）に基づいて処理することとし、設計変更の対象とする。

その他

⑪ (建設機械の賃料の採用単価)

ア 建設機械の賃料について、ラフテレーンクレーン及び高所作業車以外の建設機械は長期割引単価を標準としている。

通常単価を採用した建設機械 〔無し・有り( )〕

イ ラフテレーンクレーン及び高所作業車について、1ヶ月以上の長期利用に当たるものは長期割引単価を採用し、1ヶ月未満の利用に当たるものは通常単価を採用している。

本工事の縦排水で使用を想定しているラフテレーンクレーン(規格25t吊)の採用単価は(長期割引単価・通常単価)(建設物価 月号、 頁)を採用し、本工事の 工で使用を想定している高所作業車(規格 )の採用単価は(長期割引単価・通常単価)(建設物価 月号、 頁)を採用している。

⑫ (現場環境改善)

本工事は、現場環境改善(率計上分)実施対象工事と〔する・しない〕。

下表の内容のうち原則として各費目(仮設備関係、営繕関係、安全関係及び地域連携)ごとに1実施内容ずつ(いずれか1項目のみ2実施内容)の合計5つの実施内容を実施すること。港湾及び漁港事業は、項目に防災・危機管理関係を含めることができる。

実施に当たっては、施工計画書に実施内容及び実施時期を記載し、実施後に監督員に写真等を提出すること。

地域の状況・工事内容により組み合わせ、費目数及び実施内容を変更する場合は、原則として設計変更は行わないが、その内容(目的に資するものであること)について監督員の確認を受けること。

1内容も実施困難な場合は、監督員と協議の上、設計変更により率計上は行わない。

計上費目	実施内容
仮設備関係	1. 用水・電力等の供給設備, 2. 緑化・花壇 3. ライトアップ施設, 4. 見学路及び椅子の設置 5. 昇降設備の充実, 6. 環境負荷の低減
営繕関係	1. 現場事務所の快適化(女性用更衣室の設置を含む) 2. 労働者宿舎の快適化 3. デザインボックス(交通誘警備員待機室) 4. 現場休憩所の快適化 5. 健康関連設備及び厚生施設の充実等
安全関係	1. 工事標識・照明・安全具等安全施設のイメージアップ(電光式標識等) 2. 盗難防止対策(警報機等) 3. 避暑(熱中症予防)・防寒対策
地域連携	1. 完成予想図, 2. 工法説明図, 3. 工事工程表 4. デザイン工事看板(各工事PR看板含む) 5. 見学会等の開催(イベント等の実施含む) 6. 見学所(インフォメーションセンター)の設置及び管理運営 7. パンフレット・工法説明ビデオ 8. 地域対策費等(地域行事等の経費を含む) 9. 社会貢献
防災・危機管理関係 (港湾・漁港事業)	1. 防災訓練(地震・台風等の自然災害に対する訓練)

⑬ (熱中症対策)

熱中症対策について <https://www.pref.tottori.lg.jp/291941.htm> に掲載の熱中症予防対策資料を参考に熱中症予防対策を実施すること。

また、気象庁から高温注意報(最高気温35℃以上が予想される場合)が発表された日においては、作業の中断、作業時間の短縮を行うか、十分な水分、塩分の摂取のほか休憩場所の整備及び十分な休憩時間を確保するなどの熱中症予防対策を確実に実施したうえで作業を行うこと。

⑭ (現場管理費補正)

**【治山工事、林道工事以外】**

本工事は、熱中症対策に資する現場管理費補正の**試行要領（令和元年6月12日付第201900066875号県土整備部長通知）**の対象工事である。

熱中症対策に資する現場管理費補正の適用を希望する場合は、<https://www.pref.tottori.lg.jp/285759.htm>に掲載された**本工事調達公告日時点で最新の同要領の規定に従い**、工事着手前に提出する施工計画書に、工事期間中における気温の計測方法及び計測結果の報告方法を記載すること。計測結果は施工計画書に基づき、計測結果の資料を工期末の14日前までに提出すること。

⑮ (日本芝生産地への配慮)

日本芝の生産に配慮した植生工について（令和2年2月27日付第201900299342号県土整備部長通知）に基づき、日本芝を生産するほ場と、その前後も含めたほ場に隣接する法面においては、植生工に**パミューダグラスの使用を禁止する。**

ア **【張芝工・筋芝工】は、日本芝の【野芝・高麗芝】を使用すること。**

イ **【植生基材吹付工・客土吹付工・種子散布工・枠内吹付工】に使用する種子に「パミューダグラス」は使用しないこと。配合種子は監督員と協議のうえ決定すること。**

ウ **【わら芝工・植生シート工・植生マット工】に使用する種子に「パミューダグラス」は使用しないこと。パミューダグラスの代替えの種子として〇〇を使用し、材料費として1㎡当たり〇〇円を見込んでいる。**

⑯ (ICT活用工事[受注者希望型(LightICTを含む)])

本工事は、受注者希望型(LightICTを含む)の対象工事であるので、最新の「ICT活用工事特記仕様書(受注者希望型)」によること。

仕様書の改定状況は<https://www.pref.tottori.lg.jp/269460.htm>を参照すること。

⑰ (土石流の発生・到達するおそれのある現場での工事)

本工事は、労働安全衛生規則第2編第12章「土石流による危険の防止」に定める、土石流が発生する恐れのある現場において行う工事である。

安全対策について、<https://www.pref.tottori.lg.jp/295476.htm>に掲載の「土石流の発生・到達するおそれのある現場での工事における安全対策について」に基づいて実施すること。

⑱ (標示板の設置)

本工事は「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に基づく工事であり、標示板の工事種類について「国土強靱化対策工事(5か年加速化対策)」と標記すること。

標示板の記載及び記載内容については、道路・河川工事現場における標示施設の設置の徹底について(令和3年6月1日付け国土交通省大臣官房技術調査課建設システム管理企画室長・事務連絡)を参考にすること。

⑲ (CCUS活用推奨工事[受注者希望型]) **【災害復旧工事、受託工事は対象外(当該項目を削除する)】**

本工事は、受注者希望型の対象工事である。CCUSの活用を希望する場合は、最新の「鳥取県建設キャリアアップシステム活用推奨工事(受注者希望型)特記仕様書」によること。

仕様書の改定状況は<https://www.pref.tottori.lg.jp/291820.htm>を参照すること。

⑳ (遠隔臨場)

本工事は、遠隔臨場の対象工事である。遠隔臨場の活用を希望する場合は、<https://www.pref.tottori.lg.jp/307254.htm>に掲載された本工事調達公告日時点で最新の「鳥取県建設工事・測量等業務の遠隔臨場に関する実施要領」によること。

㉑ (施工管理システム)

本工事は、施工管理システムの利用可能工事(試行)である。施工管理システムの利用を希望する場合は、事前に監督員と協議を行うこと。なお、利用に関するアンケート調査に協力すること。対象とする施工管理システムは以下のホームページに掲載されたものである。

<https://www.pref.tottori.lg.jp/310672.htm>

㉒ (工期の延期について) **※必要に応じて記載**

本工事は、施工にあたり、ブロック積等の資材や労務の不足等により施工体制が確保できないなど、受注者の止むを得ない事情により工期の延期が必要となったときは、協議に応じる。

㉓ (稼働日について)

事業所の稼働日は2週間所、2週間所の繰返しを予定している。稼働日については、鳥取県建設技術センターと調整の上、決定すること。

㉔ (歩掛について)

「残土処分地受け入れ地整地」は整地にかかるバックホウ(0.45m<sup>3</sup>級2台)の軽油代を計上。「バックホウ賃料」は、整地にかかるバックホウ(0.45m<sup>3</sup>級2台/日)の賃料、「バックホウ運転」は、整地にかかるバックホウの特殊運転手(2名/日)を計上。

なお、バックホウ賃料は存置した期間の開始から終了までの300日(11ヵ月分)、特殊運転手は

その他

稼働日 110 日間 (11 ヶ月×10 日) を計上している。

軽油代、バックホウ賃料及び特殊運転手の日数については、稼働日又は土量の変更により精算変更を行うため、協議すること。

使用機械については、指定するものではないため、変更は行わない。

②⑤ (法面の盛土材について)

法面の盛土材として、I ゾーンは良質土が求められるため、現場内の良質土を確保し施工を行うこと。

②⑥ (現場監視員について)

受入時の受付業務や土量管理を行うため、現場監視員 110 人 (11 ヶ月)、単価 7,880 円/人を見込んでいる。作業内容等については、鳥取県建設技術センターと調整すること。

②⑦ (支給品について)

コルゲートフリューム、松丸太については過年度購入の材料を使用すること。積算は支給品扱いとしており、直接工事費には算入せず、間接工事費に算入して積算している。

②⑧ (工事区域について)

本工事は鳥取県林地開発条例の開発許可を得て事業着手している事業である。起工測量時には、残地森林を示す杭を確認し、監督員に報告すること。仮に施工上、残地森林への影響がある場合には速やかに監督員に協議すること。尚、年度当初の森林管理者による確認時には立ち会うこと。



—(河川環境対策：中部総合事務所県土整備局追記事項)—

①天神川漁業協同組合との協議対象工事—

ア) 工事に係る留意事項

本工事は、天神川水系で行うものであり、天神川漁業協同組合（以下「天神川漁協」という。）との協議対象工事である。施工に当たっては、別紙「天神川水系での工事に係る留意事項」を参照し、濁水防止対策及び天神川漁協との連絡調整を徹底すること。

なお、作業計画表を天神川漁協へ提出する際は、事前に監督員に電子メール等で連絡すること。

イ) 河川環境等に配慮した工事の施工

工事の実施に当たっては、河川環境や魚類等の保全に配慮した施工を心懸けること。

ウ) 工事調整済証の掲示

天神川漁協との調整後に配布する「工事調整済証」を工事現場に掲示すること。

エ) 河川内の石の取り扱いに係る留意点—

河川内にある自然石を石積等の工事に利用する場合は、監督員と協議し指示を受けること。

—河床に岩盤等が露頭した場合は、速やかに監督員に報告し、対策について協議すること。

—河床復旧の際には、工事で発生した玉石（概ね20cm以上）、転石は、残土処分せず現地又は同一河川に戻すこととし、河床（水のあるところ）に並べるか、護岸の根に寄石を行い、魚の生育場所の保全に努めること。なお、必要に応じて、工法等について監督員及び天神川漁協と現地協議を行うこと。

オ) 河川維持工事（伐開等）における留意点

河川内で伐開した草木等は、刈り取り後その日のうちに集積し、下流に流出しないような対策を行うこと。

また、伐開後に河川が増水すると見込まれる場合には、前日までに流出防止ネット等を清掃しておくとともに、河川内に残っている草木等は河川外に搬出しておく等下流への流失しないよう対策を行うこと。なお、梅雨、風等で河川が急激に増水する恐れがある場合は、流出防止ネットの取り扱いについて監督員と協議すること。

カ) 大型土のうを設置する場合は、本体外側に大きく番号（アラビア数字）を記入し、設置及び撤去後の数量を管理すること。また、流出防止のためロープ等で連結し、万一流出した場合は、天神川漁協にも報告の上、全数を回収すること。ブルーシート等その他の仮設材を使用する場合にも同様に設置及び撤去後の数量の管理、流出防止を行うこと。これら仮設材の設置時には監督員の立会を求めると。また、仮設材の撤去時には、発注者、受注者、天神川漁協の3者で写真等により、机上で現地確認を行うこと。なお、現地立会が必要と考えられる場合は監督員と協議すること。

漁協との調整

②東郷湖漁業協同組合との協議対象工事

ア) 工事に係る留意事項

本工事は、橋津川水系で行うものであり、東郷湖漁業協同組合（以下「東郷湖漁協」という。）との協議対象工事である。施工に当たっては、別紙「橋津川水系での工事に係る留意事項」を参照し、濁水防止対策及び東郷湖漁協との連絡調整を徹底すること。

イ) 河川環境等に配慮した工事の施工

工事の実施に当たっては、河川環境や水産資源等の保全に配慮した施工を心懸けること。

ウ) 河川維持工事（伐開等）における留意点

河川内で伐開した草木等は、刈り取り後その日のうちに集積し、下流に流出しないような対策を行うこと。また、伐開後に河川が増水すると見込まれる場合には、前日までに流出防止ネット等を清掃しておくとともに、河川内に残っている草木等は河川外に搬出しておく等下流への流失しないよう対策を行うこと。なお、梅雨、台風等で河川が急激に増水する恐れがある場合は、流出防止ネットの取り扱いについて監督員と協議すること。

エ) 大型土のうを設置する場合は、本体外側に大きく番号（アラビア数字）を記入し、設置及び撤去後の数量を管理すること。また、流出防止のためロープ等で連結し、万一流出した場合は、東郷湖漁協にも報告の上、全数を回収すること。ブルーシート等その他の仮設材を使用する場合にも同様に設置及び撤去後の数量の管理、流出防止を行うこと。これら仮設材の設置、撤去時には必要に応じて発注者、受注者、東郷湖漁協により現地確認を行うこと。

③その他河川工事

ア) 河川環境等に配慮した工事の施工

工事の実施に当たっては、河川環境や魚類等の保全に配慮した施工を心懸けること。

イ) 濁水防止工法

設計図書に定める工法により濁水対策を講じるものとするが、効果に疑問がある場合、又は現地状況等を勘案し、効果が不十分と想定される場合には、監督員に協議すること。

ウ) 濁水等発生時の対応

濁水等が発生した場合は、監督員に速やかに報告するとともに、濁水等の軽減対策を講じること。

エ) 大型土のうを設置する場合は、本体外側に大きく番号（アラビア数字）を記入し、設置及び撤去後の数量を管理すること。また、流出防止のためロープ等で連結し、万一流出した場合は、全数を回収すること。ブルーシート等その他の仮設材を使用する場合にも同様に設置及び撤去後の数量の管理、流出防止を行うこと。これら仮設材の設置、撤去時には必要に応じて発注者、受注者により現地確認を行うこと。

※ 明示する項目を\_\_\_\_\_部分に記入または追記し、不要部分は「—」で削除して使用すること。

## 8-1. 施工上の留意点

- ・工事受注者は施工前に現地状況を十分踏査し、安全性および施工効率等を考慮した適切な施工計画を立案すること。
- ・施工機械は、「排出対策型」、「低騒音型」、「低振動型」のものを可能な限り使用すること。



国土交通省指定ステッカー

~~施工方法は、工事用道路→沈砂池→暗渠排水→処分場のり面の順で適時行うこと。~~

- ・基礎地盤に草木や切株を残したまま盛土を行うと、これが腐食することにより盛土に悪影響を及ぼすことがあるため、伐採除根を行うこと。

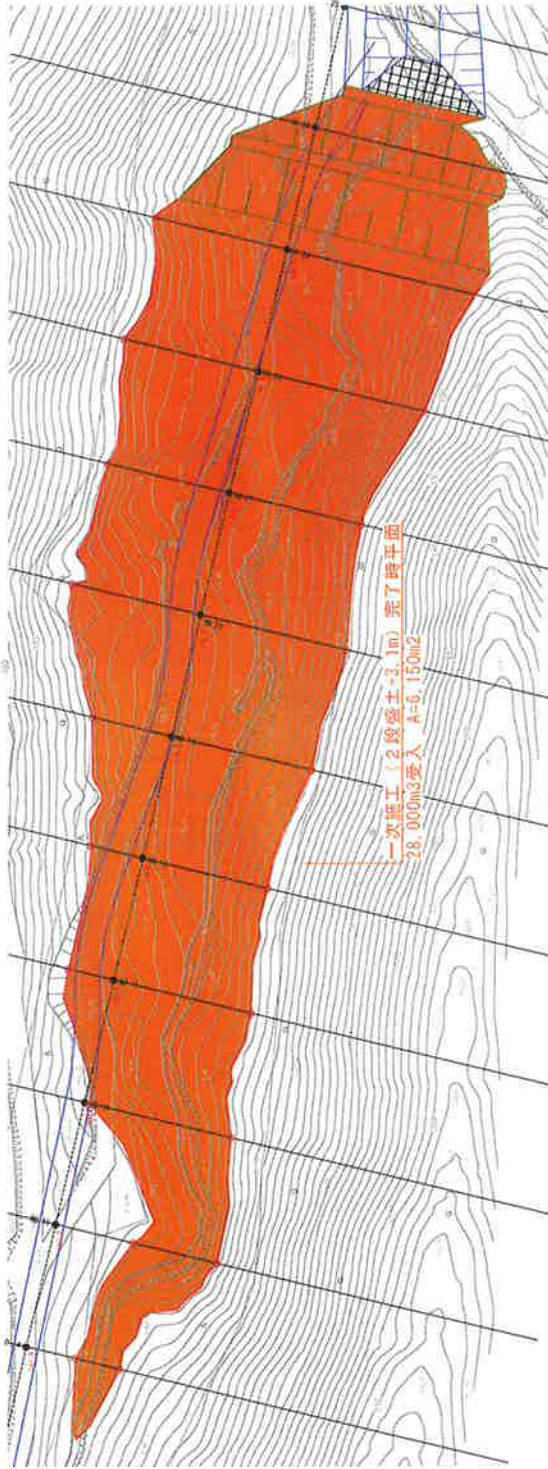
(1) 造成盛土工事

1) 造成盛土方法 のり面側 (NO. 22以降) について

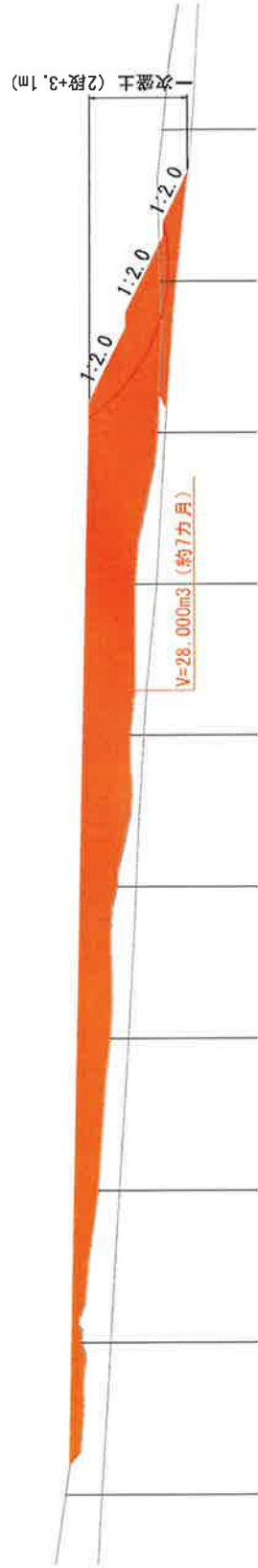
一次盛土は2段盛土+3.1mまでとし、一次盛土施工直後は、盛土のり面側に土砂を載荷しないように造成を進めること。

一次盛土完了後、3か月の期間を開けて二次盛土立ち上げ(のり面)を施工すること。以降の上部盛土についても同様とする。

NO. 0~NO. 22については、上記の対象外であり、期間を開けずに施工できる。



一次盛土完了時の平面図

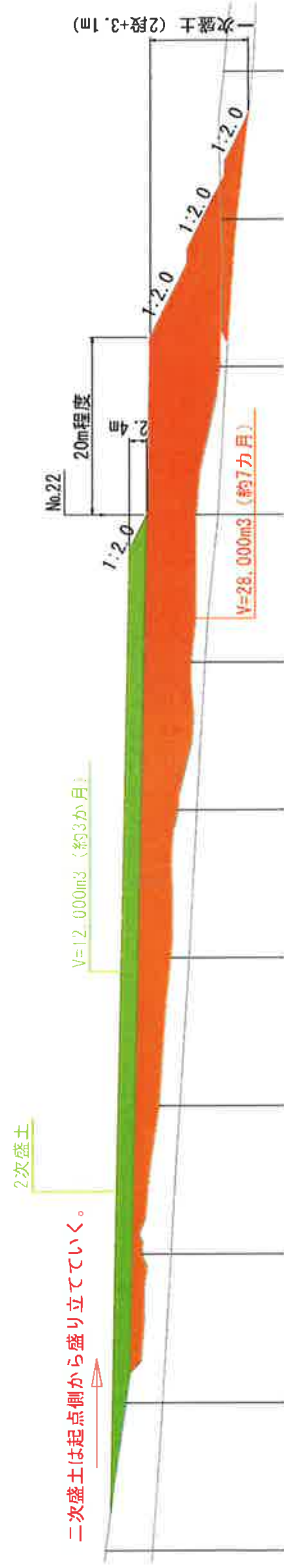


一次盛土完了時の縦断面図

一次盛土 (2段+3.1m) の土量は約 28,000m<sup>3</sup> となる。50,000m<sup>3</sup>/年の計画であるため、一次盛土の施工期間は約 7 カ月となる。1年計画のうち、残り 5 カ月は、二次盛土となる。



二次盛土の平面図



二次盛土の縦断面図(3カ月)

二次盛土は、起点側から盛り立てていき、一次盛土完了から3カ月以内のはり面に載荷しないようにする。3カ月の土砂受入量は約12,000 m<sup>3</sup>であるから、上図の緑着色に示すような盛土計画を提案する。

## 2) 動態観測

盛土の変位を観測し、安全に盛土を立ち上げるために変位杭の設置、観測を実施すること。

3-10. 動態観測の計画（変位杭）に添付している「動態観測（変位杭）計画図」を参照。

## 観測結果の評価と対応について

基本的には、水平変位が累積するようであれば不安定化している、沈下が累積していけば安定に向かっていると判断される。

水平変位量については、下表の地すべり基準（道路土工 切土工・斜面安定工指針）を準用して、

変動ランク b に達したときは、盛り立てを一時中止

変動ランク a に達したときは、盛り立て中止、対策検討

を実施することとする。

地盤伸縮計による地盤伸縮の程度とその特徴

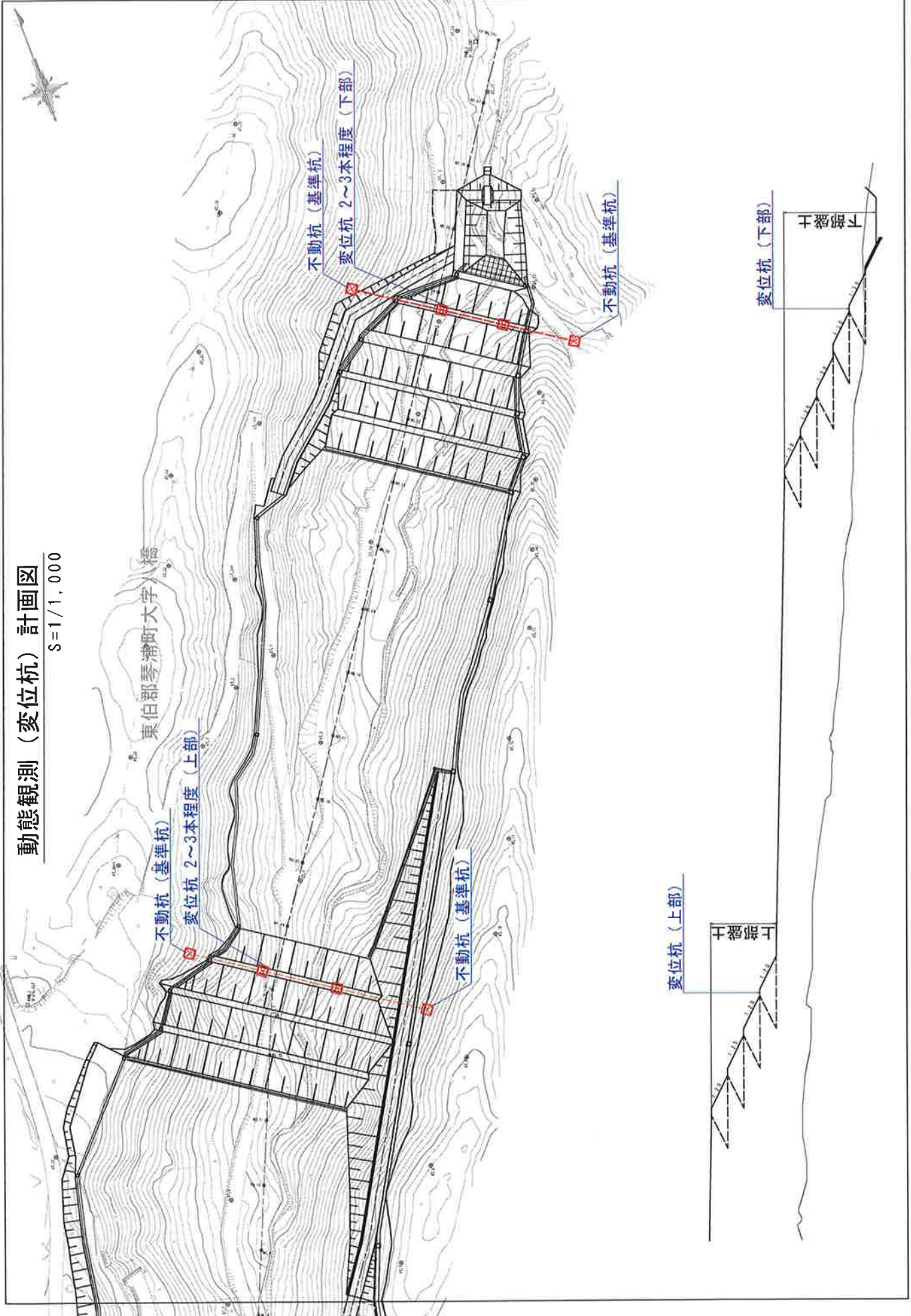
変動ランク	日変位量 (mm)	累積変位値 (mm/月)	一定方向への 累積傾向	活動性等
変動 a	1mm 以上	10mm 以上	顕 著	活発に運動中
変動 b	0.1~1mm	2~10mm	やや顕著	緩慢に運動中
変動 c	0.02~0.1mm	0.5~2mm	ややあり	継続観測が必要
変動 d	0.1mm 以上	なし (断続変動)	な し	局所的な地盤変動、その他

※日変位量と累積変位量をあわせて変動ランクを考慮する。

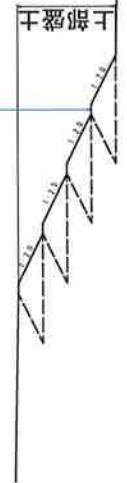
「道路土工 切土工・斜面安定工指針 p.384」

# 動態観測（変位杭）計画図

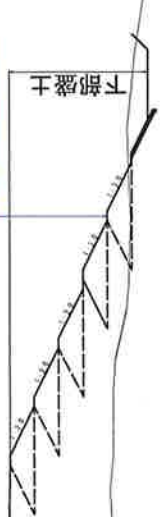
S=1/1,000



変位杭（上部）



変位杭（下部）



## (c) 盛土のゾーン分け

搬入される建設発生材料によりⅠ、Ⅱ、Ⅲに区分し盛り立てのゾーンを区分する。

◎Ⅰゾーン：盛土ののり面で、 $c=5\text{ kN/m}^2$ 、 $\phi=30^\circ$ 、 $\gamma_t=19\text{ kN/m}^3$ の土質定数及び締固め度90%で管理する。(30cm 転圧)

盛土材料は、基本的に砂礫・砂等の透水係数の高い材料で次の3種とする。

- ・第1種建設発生材料
- ・第2種建設発生材料
- ・第3種建設発生材料—第3a種

◎Ⅱゾーン：盛土範囲で暗渠を敷設している沢部(盛土初期)、のり面背後のゾーン

盛土材料は、基本的にⅠゾーンと同様で、砂礫・砂等の透水係数の高い材料で次の3種とする。なお、Ⅰゾーンとの違いは、盛土の転圧に対する基準を設けず、フル転圧程度とする。(50cm 転圧)  
また、透水係数の高い材料についてはⅠゾーン>Ⅱゾーンとする。

- ・第1種建設発生材料
- ・第2種建設発生材料
- ・第3種建設発生材料—第3a種

◎Ⅲゾーン：Ⅰ、Ⅱゾーン以外の盛土範囲、のり面に影響のない範囲。(50cm 転圧)

盛土材料は透水係数の小さい材料で、コーン指数 $300\text{ kN/m}^2$ 以上とする。これ以下は受け入れない。

- ・第3種建設発生材料—第3b種
- ・第4種建設発生材料

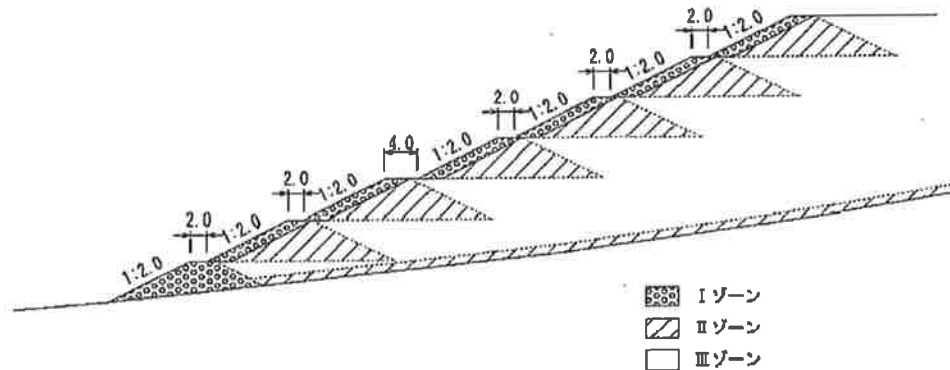


図 盛土のゾーン区分の例

(「建設発生土処分場造成マニュアル」(H19改訂案)

県土整備部企画防災課・(財)鳥取県建設技術センター編 p41より)

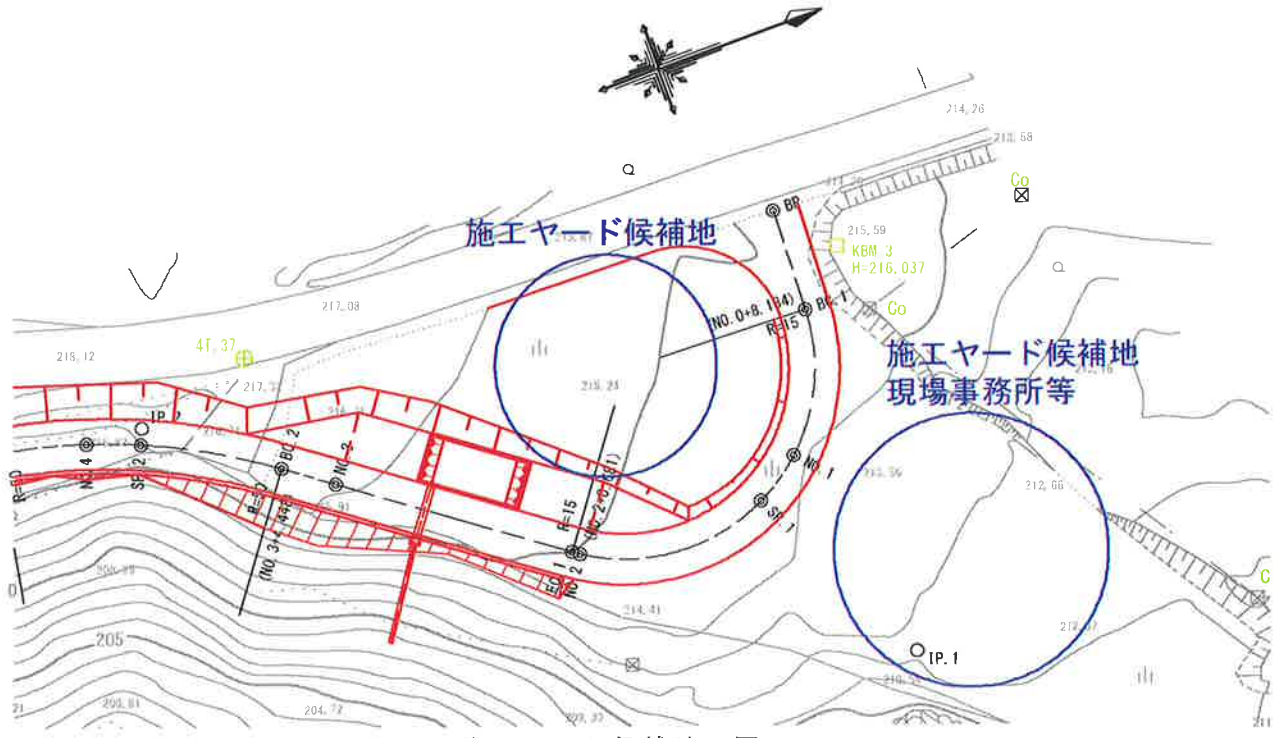
のり面勾配は1:2.0、小段幅は2.0mを標準とし、長大のり面では小段高さ20~30mごとに幅4.0mの幅広小段を設けるものとする。



### 8-3. 施工ヤード

施工ヤードは、原則として処分場内を利用する。

ヤード候補地 工事用道路のBP付近



施工ヤード候補地の図

法令等による規制状況調査

工事名	帽子取第2事業所造成工事(R7)		工事場所	東伯郡琴浦町八橋				
法令等	関係条文(必要手続き等)	手続の 要否	申請先	申請等年月日	許可等年月日	許可等期間	許可書等 写し添付	備考
道路法	■24条(道路管理者以外の者の行う工事の承認申請)	要否	琴浦町	契約後			<input type="checkbox"/>	
	■32条(道路の占用の許可申請)	要否	琴浦町	R1.7.24	R1.8.1	許可日 ~R11.3.30	<input type="checkbox"/>	
	□95条の2(公安委員会との調整)	要否					<input type="checkbox"/>	
河川法	□20条(河川管理者以外の者の行う工事の承認申請)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□24条(河川の占用の許可申請)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□26条(工作物の新築等の許可申請)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□27条(土地の掘削等の許可申請)	要否					<input type="checkbox"/>	
鳥取県砂防指定地等 管理条例	□1条1項(砂防指定地内における行為、占用の協議)	要否					<input type="checkbox"/>	
地すべり等防止法	□18条(地すべり防止区域における行為の許可申請)	要否					<input type="checkbox"/>	
急傾斜地の崩壊による 災害防止に関する法 律	□7条4項(急傾斜地崩壊危険区域内における行為の協議)	要否					<input type="checkbox"/>	
農地法	■4条1項(転用の許可申請)	要否	琴浦町 教育委員会	R1.7.18	R1.8.28	R1.8.28から 10年間	<input type="checkbox"/>	
	□5条1項(一時転用の事前協議・報告) R5.2.24付第202200246188号「公共事業の施 工に伴う附帯施設の設置の際の農地の一時転 用の取扱いについて」(技術企画課長通知)	要否					<input type="checkbox"/>	
森林法	■10条の2(開発行為の許可)	要否	鳥取県	R1.5.23	R1.7.8	R1.7.8 ~R11.3.30	<input type="checkbox"/>	
	□10条の8(伐採及び伐採後の造林の届出等)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□27条(保安林の指定解除申請)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□34条(保安林における立木伐採の許可申請)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□伐採範囲事前協議 https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/332527/ chirashi_kouji.pdf	要否					<input type="checkbox"/>	
鳥取県漁業調整規則	□48条(漁場内の岩礁破砕等の許可)	要否				<input type="checkbox"/>		
文化財保護法	□94条(埋蔵文化財包蔵地の発掘の通知)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□125条1項(史跡名勝天然記念物の現状変更 等の許可申請)	要否					<input type="checkbox"/>	
自然公園法	□20条3項(特別地域における行為の許可申 請)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□21条3項(特別保護地区における行為の許可 申請)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□33条1項(普通地域における行為の届出)	要否					<input type="checkbox"/>	
鳥取県立自然公園条 例	□16条1項(特別地域における行為の協議)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□16条2項(普通地域における行為の通知)	要否					<input type="checkbox"/>	
自然環境保全法	□25条4項(特別地区における行為の許可申 請)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□27条3項(海域特別地区における行為の許可 申請)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□28条1項(普通地区における行為の届出)	要否					<input type="checkbox"/>	
鳥取県自然環境保全 条例	□20条1項(特別地区における行為の協議)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□20条2項(普通地区における行為の通知)	要否					<input type="checkbox"/>	
採石法	□42条の2(国等に対する適用)	要否					<input type="checkbox"/>	
砂利採取法	□43条(国等に対する適用)	要否					<input type="checkbox"/>	
土壌汚染対策法	■1条1項(土壌汚染のおそれがある土地の形 質変更の届出)	要否	鳥取県	R1.7.30	R1.8.7	-	<input type="checkbox"/>	
	□届出不要		①掘削面積		m <sup>2</sup>	②盛土面積	45,000m <sup>2</sup>	合計 (①+②) 45,000m <sup>2</sup>
※掘削、盛土面積は、 <b>事業箇所全体における面積</b> を記入すること。(工事毎の面積ではない) ※掘削及び盛土部分の合計の面積が3,000m <sup>2</sup> 以上となる場合は届出が必要。ただし、盛土のみの場合は届出不要。								
景観法	■16条5項(景観計画区域内における行為着手 前の通知)	要否	鳥取県	R1.8.1	R1.8.14	R1.10.1 ~R11.3.31	<input type="checkbox"/>	
都市計画法	□34条の2(開発行為の協議)	要否					<input type="checkbox"/>	
水路業務法	□6条(海上保安庁以外の者が実施する水路測 量)	要否					<input type="checkbox"/>	
	□19条1項(水路関係事項の通報)	要否					<input type="checkbox"/>	
漁業対策協議会規約	□(事業調整会議等での協議)	要否					<input type="checkbox"/>	
建設リサイクル法	■11条(国等に関する特例) 都道府県知事への通知	要否	鳥取県	契約後			<input type="checkbox"/>	
開発同意	■5条1項(開発同意)	要否	鳥取県	R1.5.22	R1.7.12	-	<input type="checkbox"/>	
農業振興地域の整備 に関する法律	■13条1項(農振除外の申出)	要否	琴浦町	H31.4.22	R1.8.28	農振除外	<input type="checkbox"/>	
その他	■法定外公共物等	要否	琴浦町	H31.4.26	R1.5.10	R1.5.10 ~11.6.30	<input type="checkbox"/>	

注) 1 許可(承認)書の写しを添付すること。

2 手続の要否について確認した方法を備考欄に記載すること。例)管内図で確認、所管課に事前協議、対象規模要件外 など

(様式-2)

# 通 知 書

令和7年 月 日

鳥取県中部総合事務所長 様

発注者職氏名 公益財団法人鳥取建設技術センター 代表理事(公印省略)  
住 所 鳥取県倉吉市福庭町2丁目23番地

建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律第11条の規定により、下記のとおり通知します。

## 記

連 絡 先	所 属 名	鳥取県建設技術センター	
	担当者職氏名		
	電 話 番 号		
工 事 の 内 容	工事の名称	帽子取第2事業所造成工事(R7)	
	工事の場所	東伯郡琴浦町八橋	
	工事の概要	工事の種類 <input type="checkbox"/> 建築物に係る解体工事 <input type="checkbox"/> 建築物に係る新築又は増築の工事 <input type="checkbox"/> 建築物に係る新築工事等であって新築又は増築の工事に該当しないもの <input type="checkbox"/> 建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等 ( ) 注1 工事の規模 建築物に係る解体工事 用途 _____、階数 _____、工事対象床面積 _____ m <sup>2</sup> 建築物に係る新築又は増築の工事 用途 _____、階数 _____、工事対象床面積 _____ m <sup>2</sup> 建築物に係る新築工事等であって新築又は増築の工事に該当しないもの 用途 _____、階数 _____、請負代金 _____ 万円(税込) 建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等 請負代金 _____ 万円(税込)	
	工 期	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日 工事着手予定日：令和 年 月 日	
請 負 者	会 社 名		現場代理人氏名 <sup>フリガナ</sup>
	所 在 地	〒	
	電 話 番 号		ファクシミリ

※受付番号： \_\_\_\_\_

注1) 建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等の場合は工事の具体的な種類を記入する。(例：舗装、築堤、土地改良等)

添付資料 別表1 別表2 別表3  
位置図  
設計図(平面図)

建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等(土木工事等)

分別解体等の計画等

工作物の構造 (解体工事のみ)		□鉄筋コンクリート造 □その他( )	
工事の種類		□新築工事 □維持・修繕工事 □解体工事 □電気 □水道 □ガス □下水道 □鉄道 □電話 ■その他( )	
使用する特定建設資材の種類 (新築・維持・修繕工事のみ)		■コンクリート □コンクリート及び鉄から成る建設資材 □アスファルト・コンクリート □木材	
工作物に関する調査の結果	工作物の状況	築年数 _____ 年 その他( )	
	周辺状況	周辺にある施設 □住宅 □商業施設 □学校 □病院 □その他( ) 敷地境界との最短距離 約 _____ m その他( )	
工作物に関する調査の結果及び工事着手前に実施する措置の内容	工作物に関する調査の結果		工事着手前に実施する措置の内容
	作業場所		作業場所 ■十分 □不十分 その他( )
	搬出経路		障害物 □有( ) □無 前面道路の幅員 約 6.0 m 通学路 □有 ■無 その他( )
	特定建設資材への付着物(解体・維持・修繕工事のみ)		□有 ( ) □無
	他法令関係(解体・維持・修繕工事のみ)	石綿(大気汚染防止法・安全衛生法石綿則)	□有 特定建設資材への付着( □有 □無 ) □無
	その他		
工程ごとの作業内容及び解体方法	工程	作業内容	分別解体等の方法(解体工事のみ)
	①仮設	仮設工事 ■有 □無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
	②土工	土工事 ■有 □無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
	③基礎	基礎工事 □有 ■無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
	④本体構造	本体構造の工事 ■有 □無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 ■有 □無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用
⑥その他 ( )	その他の工事 □有 ■無	□ 手作業 □ 手作業・機械作業の併用	
工事の工程の順序(解体工事のみ)		□上の工程における⑤→④→③の順序 □その他( ) その他の場合の理由( )	
工作物に用いられた建設資材の量の見込み(解体工事のみ)		トン	
廃棄物発生見込量	特定建設資材廃棄物の種類ごとの量の見込み(全工事)並びに特定建設資材が使用される工作物の部分(新築・維持・修繕工事のみ)及び特定建設資材廃棄物の発生が見込まれる工作物の部分(維持・修繕・解体工事のみ)	種類	量の見込み
		■コンクリート塊	50トン
		□アスファルト・コンクリート塊	トン
		□建設発生木材	トン
		使用する部分又は発生が見込まれる部分(注) □① □② □③ □④ ■⑤ □⑥ □① □② □③ □④ □⑤ □⑥ □① □② □③ □④ □⑤ □⑥	
(注) ①仮設 ②土工 ③基礎 ④本体構造 ⑤本体付属品 ⑥その他			
備考			

□欄には、該当箇所に「レ」を付すこと。

## みんなで、適切な賃金水準を確保！ 社会保険等への加入を徹底！

まじめに働く職人が報われるために



### 【現状と課題】

- ◆ 近年、建設投資の大幅な減少に伴う競争激化のしわ寄せが、労働者の賃金低下をもたらし、若年入職者が大きく減少
- ◆ 今、適切な対策を講じなければ、将来の建設産業の存続が危惧される状況

適切な賃金水準の確保や社会保険等への加入徹底により、就労環境を改善し、若年者の入職が進むような職場とする必要があります。

- ◆ 適切な賃金水準の確保、社会保険等への加入徹底の観点から、本県では公共工事設計労務単価を平成25年4月に11.5%、平成26年2月には6.6%、平成27年2月には4.1%、平成28年2月には3.6%、平成29年3月には3.2%、平成30年3月には3.1%、平成31年3月には1.4%、令和2年3月には2.5%、令和3年3月には0.8%、令和4年3月には2.8%、令和5年3月には4.4%、令和6年3月には6.4%、令和7年3月には7.6%引き上げ、平成24年度に比べ約75.5%の上昇となりました。

### 技能労働者への適切な水準の賃金支払

- 適切な価格での下請契約を締結しましょう
- 技能労働者への適切な水準の賃金支払を元請から下請に要請しましょう
- 雇用する技能労働者の賃金水準を引き上げましょう

### 社会保険等への加入徹底

- 法定福利費相当額(労働者負担分及び事業主負担分)を適切に含んだ下請契約を締結しましょう
- 労働者に法定福利費相当額を適切に含んだ賃金を支払い、社会保険に加入させましょう

#### 元請による下請への指導 (社会保険の加入に関する下請指導ガイドライン)

- 周知啓発や加入状況の定期把握、加入指導(2次以下を含む。)
- 未加入企業を下請企業に選定しない取扱いとすべき
- 新規入場者の受け入れに際し、適切な保険に加入させるよう下請企業を指導。加入が確認できない作業員の現場入場を認めない取扱いとすべき

**社会保険適用除外者(従業員が4人以下の個人事業主や一人親方)や適切な保険に加入している作業員に対して、誤って社会保険等の加入を強制することのないように注意が必要**

#### 請負契約における法定福利費の確保 (標準見積書の活用)

元請

- 発注者に対し法定福利費を含む金額による契約締結を求めましょう
- 専門工事業者に法定福利費が内訳明示された見積書の提示を求めるとともに、提示された場合、これを尊重しましょう

下請

- 法定福利費が内訳明示された見積書を活用等して、元請に見積提出しましょう



## 公共工事設計労務単価（主要 10 職種）変動率

鳥取県の公共工事設計労務単価は、全職種平均で平成25年に11.5%、平成26年2月に6.6%、平成27年2月に4.1%、平成28年2月に3.6%、平成29年3月に3.2%、平成30年3月に3.1%、平成31年3月に1.4%、令和2年3月に2.5%、令和3年3月に0.8%、令和4年3月に2.8%、令和5年3月に4.4%、令和6年3月に6.4%、令和7年3月に7.6%引き上げられ、平成24年度に比べ約75.5%の上昇となりました。主要10職種の引き上げ率は下表のとおりです。

職種	単価(円)													対H24.4比	上昇率
	H24.4	H25.4	H26.2	H27.2	H28.2	H29.3	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3		
特殊作業員	13,800	15,300	15,900	16,100	17,000	17,000	17,500	18,200	18,500	18,600	19,600	20,000	21,600	22,900	65.9%
普通作業員	10,800	12,000	12,500	12,700	13,800	13,800	14,200	14,800	15,000	15,000	15,500	16,000	16,800	17,900	65.7%
鞋作業員	9,500	10,900	11,300	11,400	12,100	12,100	12,500	13,000	13,200	13,200	13,200	14,000	15,200	16,200	70.5%
とび工	15,000	16,800	18,000	18,900	19,900	20,500	21,200	21,300	21,800	21,800	22,900	23,300	24,100	25,700	71.3%
鉄筋工	14,900	16,700	17,900	18,800	19,800	20,300	20,900	21,000	21,500	21,500	21,500	21,700	25,400	27,000	81.2%
運転手(特殊)	12,900	14,300	14,800	15,000	15,800	15,800	16,300	17,000	17,300	17,300	18,000	18,400	19,800	20,900	62.0%
運転手(一般)	11,100	12,300	12,900	13,100	13,900	13,900	14,300	14,900	15,100	15,500	16,300	16,700	18,100	19,200	73.0%
型わく工	14,600	16,400	17,600	18,500	19,500	20,000	20,600	20,700	21,200	21,800	21,800	23,200	24,400	25,900	77.4%
大工	14,900	16,700	17,900	18,800	19,800	20,300	20,900	21,000	21,500	21,500	21,500	22,700	23,500	25,000	67.8%
左官	14,200	15,900	17,100	18,000	19,000	19,500	20,100	20,200	20,600	20,600	20,600	21,600	22,400	24,400	71.8%

### 【公共工事設計労務単価とは？】

- 公共工事の予定価格の算出に用いる積算用の単価で、作業員やとび工など技能労働者51職種について定めています。
- 各職種の通常の作業条件及び作業内容の労働（所定時間内）に対する単価で、時間外等の割増賃金や作業内容を超えた特殊な労働に対する賃金は含まれていません。
- 労務単価の内訳は次のとおりです。

労務単価 = 1. 基本給相当額 + 2. 基準内手当 + 3. 臨時の給与 + 4. 実物給与

- 基本給相当額 基本給（法定福利費本人負担相当額を含む。）及び出来高給
- 基準内手当 家族手当、通勤手当、住宅手当、技能手当など
- 臨時の給与 賞与（ボーナス）など
- 実物給与 通勤定期や食事の支給など

注：法定福利費事業主負担分は、現場管理費に計上されています（労務単価には、法定福利費事業主負担分は含まれていません。）。

- 新しい労務単価は、労務費調査により賃金の支払い実態を把握し、その結果を基に決定します。よって、労務単価が適切な水準に維持されるためには、末端の下請企業の技能労働者に至るまで持続可能性を確保できる水準の賃金が適切に支払われることが重要となります。

【例】普通作業員（17,900円/日、20日/月勤務）の場合

月当たり 17,900(円/日)×20(日)=358,000円となり、これは上記枠内の1.～4.により算定した年収(4,296千円)を12ヶ月で除したものに相当し、法定福利費(雇用保険、医療保険及び年金保険)の本人負担相当額(約15%)が含まれています。

鳥取県県土整備部県土総務課

# 公共工事設計労務単価と法定福利費

— 適正な金額での下請契約のために —

公共工事設計に計上されている各工種の労務費及び諸経費（現場管理費）には、法定福利費が含まれています。下請契約にあたっては、法定福利費相当額（労働者負担分及び事業主負担分）を適切に含んだ金額で締結してください。

また、労働者に法定福利費相当額を含んだ賃金を支払い、社会保険等への加入を徹底しましょう。

なお、法定福利費相当額（労働者負担分及び事業主負担分）の算出にあたっては、下記を参考にしてください。

## 代表的な専門工種の労務に係る法定福利費相当額の算定例（R7.3月以降）

### ■標準単価（公共工事設計標準歩掛及び労務単価による）

各工種の標準的な積算条件による単価は以下のとおり（直接工事費原価ベース）ですが、詳細な積算条件等は、公表設計書をご覧ください。

工種名	規格	単位	標準単価		
				労務費	器具及び諸雑費
鉄筋工 ※1	D10～D51	t	59,000 円 (100.0%)	57,466 円 (97.4%)	1,534 円 (2.6%)
足場工	手摺先行型 足場	掛㎡	4,332 円 (100.0%)	2,435 円 (56.2%)	1,897 円 (43.8%)
型枠工 ※2	鉄筋・無筋 構造物	㎡	8,165 円 (100.0%)	6,639 円 (81.3%)	1,526 円 (18.7%)

※1 鉄筋工の値は、鉄筋材料費を含まず、また市場単価のため、H4歩掛の構成比率から算定。

※2 型枠工の値は、施工パッケージのため、構成比から法定福利費の対象となる労務費を算定。

詳細な内訳は、下記ホームページを参照してください。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/tekiseishitauke/>

注) 下請金額には、上記の標準単価の他に、運搬費、会社経費等の諸経費の計上が

必要です。

### ■法定福利経費の算出

	①標準単価 (直接工事費原価)	②うち労務費		③事業主負担分 法定福利費 (現場管理費分に計上)
			うち労働者負担分 法定福利費	
鉄筋工	59,000 円/t	57,466 円/t	8,941 円/t	9,390 円/t
足場工	4,332 円/掛㎡	2,435 円/掛㎡	378 円/掛㎡	398 円/掛㎡
型枠工	8,165 円/㎡	6,639 円/㎡	1,033 円/㎡	1,086 円/㎡

◎労働者負担分の算定式 労務費×155.60÷1,000

◎事業主負担分の算定式 労務費×163.70÷1,000

※R7.3月以降の率

●元請から下請事業主に支払われる部分 ⇒①(単価)＋③(事業主負担分法定福利費)

●下請事業主から下請労働者に支払われる部分 ⇒②(労務費)

※労務費に労働者負担分法定福利費を含む

鳥取県県土整備部技術企画課